

環境

key word

- コンパクトシティ政策
- 都市空間再編
- 空き家の利活用
- 生活の質
- ソーシャル・キャピタル



近藤 紀章
Noriaki Kondo

データサイエンス・AIイノベーション
研究推進センター 講師

【専門分野】
・都市デザイン
・土木計画学

【プロフィール】
・2004年3月 大阪市立大学
大学院文学研究科修了
・2007年3月 滋賀県立大学
大学院環境科学研究所 単位
取得満期退学
その後、滋賀県立大学地域づくり
教育研究センター研究員、
滋賀大学環境総合研究センタ
ー客員研究員等を経て
・2020年9月 博士(経済学)
・2023年3月 滋賀大学デー
タサイエンス AI イノベーション
研究推進センター(経済学系)
講師

【社会的活動】
・彦根商工会議所 異業種交
流会アドバイザー
・小江戸ひこね町屋活用コン
シウム運営委員

【所属学会】
都市計画学会・土木学会・造
園学会など

【代表的な研究テーマ】

- 地方都市の持続可能性に関する実証的研究
- まちづくりの実践的研究

課題解決に役立つシーズの説明

【地方都市の持続可能性に関する実証的研究】
少子高齢化によって、さまざまな地域課題のうち、移動や居住地選択など人びとの行動を、アンケート調査などを通じて把握し、定量分析によるモデル化を通じて、施策立案のための研究をおこなっています。

【空間再編】近藤紀章・田中勝也(2022)生活道路の空間再編が交通静穏化と身体活動の促進に与える影響—オレゴン州ポートランドにおける Neighborhood Greenways を対象として、都市計画論文集, Vol.57 No.3 pp.1295-1300

・対象地域
Urban Growth Boundary (UGB) エリア
メトロによる都市開発の管理と農地、森林の保全

因果効果の推定

・IPW法
ポートランド都市圏のUGBに居住する住民に対して、NGの導入は、**散歩頻度を高める**とともに、**交通量の減少効果が感じられる**ものの、**自転車の走行環境が安全でない**と感じる効果

結果変数	効果	IPW法	傾向スコアマッチング
NG認知度		0.031	0.031
散歩頻度		0.079	0.047
歩行環境の安全性		-0.041	-0.025
自転車の走行環境が安全でないと感じる効果		-0.124	-0.052
交通静穏化		-0.124	-0.052
車の速度認知		0.083	0.051
歩行環境の安全性		-0.078	-0.052
自転車の走行環境の安全性		-0.112	-0.051

・傾向スコアマッチング法
NGが導入された地域に居住する住民に対して、**散歩頻度を高める**ものの、**車の速度が速い**と感じる効果

NGの導入によって、身体活動のなかでも「散歩頻度」が高まる効果

【居住地選択】近藤紀章・中野桂・田中勝也(2019)社会属性と地域特性が将来居住地選択に与える影響に関する研究, 都市計画論文集, Vol.54, No.3, pp.766-771

2. アンケート調査の概要

【調査方法】
インターネット調査
モニターに対する事前調査
→本調査(年代・性別・居住地で割付)
【調査期間】 2019年3月26-27日
【有効回答数】 2,282人
男性1,126人・女性1,156人
滋賀761人・京都760人・大阪761人

【質問項目】
個人属性・居住意向・地籍的活動・
環境認識・地域への態度

(3) 分析結果と考察

【保留・不明】
転居と同傾向・継続と反対
雇用・医療・高・持ち家・低
正：近隣行事・医療・雇用
負：年齢・子ども・持ち家
婚姻・鉄道・出身地・治安
公園・経済
つきあい高・地籍低→風の人
→継続：土の人

変数	転居意向	保留・不明	継続意向
年齢	-0.058	**	-0.013
子ども数	-0.0219	**	-0.028
持ち家	-0.1339	**	0.0198
雇用	-0.0097	**	-0.0176
転居	0.0845	**	0.0415
近隣行事	0.0433	**	-0.0213
医療	0.0710	**	-0.0349
出身地	-0.0572	**	-0.0281
治安	0.0356	**	0.0175
婚姻	0.0753	**	0.0176
公園	-0.0870	**	-0.0428
経済	0.1332	**	0.0655
雇用	0.1242	**	0.0411
地籍	-0.0508	**	-0.0282

【まちづくりの実践的研究】

「社会をよくするためには、何ができるのか」という問いに対して、住んでいる人が、「これからもここに住み続けたい」という思いを育むために、まちづくりの視点から、実践的研究にとりこんでいます。

【社会福祉】共生社会フォーラム(主催:厚生労働省/実施:糸賀財団)の企画・運営支援

共生社会フォーラムは大きく3つのプログラムに分かれています。

コース① 一般プログラム
対象：どなたでも

表現活動鑑賞や基礎講座、研修プログラム

表現活動を鑑賞し、基礎講座では共生社会の実現に向けて発展的取り組みを推進する関係者ら対話をうかがいます。研修プログラムでは、日本の障害福祉の父とされる「糸賀一雄」の思想と実践について学びます。

* 1日目14:00までのプログラムにご参加いただけます

コース② 企業向け研修
対象：企業経営者・管理職等

共生社会づくりリーダー養成研修

SDGsや多様性の求められる現代、誰もが働きやすい職場にしたいのは非難に値いものでも、そこで、目的のケアを通じて多様な人とのコミュニケーションを図っている福祉事業の発展や福祉の推進・拠点学習プログラムです。

* 1日目14:00以降のプログラムに参加していただきます。コース①とのダブル受講を推奨します

コース③ 福祉職向け研修
対象：福祉職・学生

共生社会における語り部等養成研修

溝久井やゆかり園事件を契機に、福祉に関わる人々の責任や役割がより問われる。対象者に2つの分科会(下記研修中の方活動)にのり、共生社会の本質について考え、普及啓発のための語り部を目指すプログラムです。

* 2日目のプログラムにご参加いただきます

企業・自治体へのメッセージ

人々が居心地よく暮らし続けるために、「人はどのように行動をしているのか」、「地域やコミュニティはどうして続いているのか」という問いに対して、空間や環境がどのように応えていくのかを考えています。